

映画史上これ程感動を与えた映画が他にあつたらうか

絶賛の数々

- 第一部・第二部
 - 雄大なスケール、迫力ある力作
称えたい小林監督の気魄
(報知新聞・深沢氏)
 - すさまじい群衆場面
みごとな「小林演出」のねばり
(日刊スポーツ・今川三郎氏)
 - 日本のドクトル・ジバゴ
(随想家・岡部伊都子氏)
 - 胸がふさがる思い
「人間」を認めない戦争の罪惡
(九大教授・青山道夫氏)
- 第三部・第四部
 - 日本軍隊への怒り
原作に忠実に巧みな長編構成
(毎日新聞・草壁氏)
 - 反戦の信念つらぬく
(読売新聞・錦氏)
 - 「英雄」梶の活躍描く
戦斗シーンに凄絶な迫力
(内外タイムズ・静氏)
 - 軍隊の非人間化描く
あらためて強い感動を与える
(スポーツニッポン・敏氏)
- 第五部・第六部
 - 長篇ロマンの力量感
(内外タイムズ・竜氏)

- 戦争の非惨を訴える捕虜収容所場面が
圧巻
(朝日新聞・酒井氏)
- すさまじい迫力にじみ出る孤独感
(東京新聞・七氏)
- 金字塔うち立てた力作にすべてに惜し
まない賛辞
(西日本スポーツ・晚氏)
- ★優秀映画鑑賞会
★文部省選定 ★都教育庁
★21回ベニス国際映画祭
サン・ジヨルジュ賞(銀賞)
パンネッティ賞(映画批評家賞)
★都民映画コンクール金賞・他受賞多数
他推薦多数

世界の映画界で二度と作れぬ
最高最大の感動巨篇



■ 愛の感動を謳う〈9時間31分〉の大ロマンはあなたの生涯の思い出として永遠に消え去らぬことでしょう

9月11日・18日・25日・10月2日・9日・16日・23日・30日

毎土曜オールナイト興行

夜のみ上映

(昼間は本興行につきご注意下さい) ■ニュープリント

お立見なしの限定前売券・発売中!

¥1,000 (当日一般1,300円の処)

: 他に指定席前売中 1,800円

新宿ピカデリー

TEL (352) 1771

紀伊国屋ビルウラ

1部・2部	22:20~1:40
3部・4部	1:50~4:50
5部・6部	4:55~8:05



この映画の焦点

■戦後最高のベストセラー

五味川純平氏の「人間の条件」は、想を練ること実に一ケ年、持して放った問題作である。この大河小説がベストセラーズ・トップをしめたのは、不滅の人間愛があるからだ。

■巨匠小林正樹監督の最高傑作

この作品の重厚な演出で小林監督の名は海外に知られたと共に彼の最高傑作として映画史の一ページを埋めた。

■テーマはヒューマニズム

「人間性」をどこかに置き忘れてきたような狂気の戦時下。その中にがん強に「人間らしい生き方」を求めてきた梶の生涯を描くのがこの作品である。

■超一流の配役陣

日本映画史上、これほど豪華なキャストを描えた映画はあるはずがなく、美しくも激しい愛情が二度と出来ない大配役でみごと結晶した。

■第一部（純愛篇）・第二部（激怒篇）

南満州にある鉄鋼会社に勤務する梶が、老虎嶺鉱山に転勤させられ、中国人捕虜を服役する。捕虜を人間らしく扱うことによつて軍部から反感をかわれ、召集される。

■第三部（戦雲篇）・第四部（望郷篇）

人間性を無視する軍隊に於て梶は日本軍隊の矛盾に苦斗するが、日本軍は遂にソ連軍の攻撃をうけ、激戦の末、崩壊する。

■第五部（死の脱出）・第六部（曠野の彷徨）

終戦を迎えた梶が、飢餓と生命の危険にさらされながら、愛する妻の幻影を追い、雪の降りしきる曠野をさまよい、倒れてゆく……

にん

げん

じょう

けん

人間の条件

■第一部
■第二部
■第三部
■第四部
■第五部
■第六部

純愛篇
激怒篇
戦雲篇
望郷篇
死の脱出
曠野の彷徨

美千子よ、生きているのか……
愛する妻の幻影を追う悲痛な梶の叫び！

高 佐 桂 安 佐
峰 田 井 田 田
中 村 昌 啓 啓
村 玉 緒 二
津 祐 介
岸 田 今 子
金 子 信 雄
笠 智 衆

仲代達矢
新珠三千代
淡島千景
石浜朗
山 村 聡
宮 口 精 二
小沢栄太郎
三 井 弘 次
安 部 徹
小林トシ子
芦 田 伸 介
殿 山 泰 司
東 野 英 治 郎
南 原 宏 治
有 馬 稲 子

監督 小林正樹
原作 五味川純平
脚本 松山善三
中国語監修 稲垣公一
露語監修 黎 波
撮影 小泉健司
美術 宮島義勇
音楽 木下高忠
照明 青木明司
製作 若林正樹

堂々九時間半に亘る世紀の大作一挙上映！